

令和 7 年 3 月 18 日

世田谷区立明正小学校校長 栗林大輔殿

世田谷区立明正小学校
学校関係者評価委員会
委員長 西山 朝子

令和 6 年度 明正小学校関係者評価結果報告

令和 6 年度の学校関係者評価結果を報告いたします。この報告書作成にあたり、学校関係者評価アンケート集計結果、自己評価報告書（学校教職員による内部評価で、個人点検表の集計及び評価項目ごとに 1 年間の課題を洗い出し、次年度に向けての改善策等を検討する）、先生方との懇談会でのヒアリング、授業・行事の見学等をもとに、委員会において検討し、評価しました。

この結果報告を本校児童の教育環境の充実に向けて役立ててください。

◎総評

令和 6 年度、児童向け学校評価アンケートの多くの項目でプラス評価（「とても思う」と「思う」の合計）が前年度より上昇している。全般的に児童と先生の関係が良好に保たれ、学校での行事や学習で児童がより積極的に取り組めた一年であったと評価する。とりわけ学校行事に関しては、「楽しい」、「達成感がある」、「先生は、児童の意欲を大切にしている」といった設問に対しては、いずれも約 90%の児童がプラス評価となっている。また「先生に注意されたことは理解できる」のプラス評価は 90.4%、「先生たちは、ていねいに指導してくれる」のプラス評価は 92.0%と、いずれも高い数値となっている。これは、管理職と教職員がチーム明正として協力し、意欲的に教育活動に取り組んだ成果と評価する。

スクールサポートスタッフ、学校生活サポーター、学校包括支援員、教科支援員などの支援スタッフの活用については、自己評価報告書内で「サポートが有効であった」との意見が多く、より効果的な活用を推進していただきたい。

教科担任制の導入に向けて、今年度は体育、理科、社会で試験的な実施（交換授業）が行われた。自己評価報告書および先生方へのヒアリングによれば、教科担任制に対して先生方は概ね前向きにとらえていると思われる。教科担任制の利点としては「複数の教員の目で児童を捉えられる」、「教材研究の時間が削減可能」、「専門性が高められる」などの点が挙げられている。一方、課題としては「時間割の調整が難しい」、「教科によって負担のばらつきがある」、「若手教員にとっては、他の教科の指導力がつかない」などの指摘があった。子どもたちの反応は概ね良好で、いろいろな先生の授業を楽しんで受けている様子であったとのことである。今後も、こういった利点や課題を踏まえつつ児童の学習意欲の向上に資する取り組みを進めていただきたい。

先生方へのヒアリングによれば、すぐるによる保護者への情報伝達はほぼ定着してきた状況であるが、一部の保護者については連絡帳等の紙媒体での情報伝達の方が確実との意見があった。ペーパーレス化の推進は重要であるが、情報伝達を確実にを行うために、各家庭の状況に応じたきめ細かい対応が今後必要と考えられる。

◎回収率について

保護者向け調査シート回収率 65%（前年度 69%）、児童向け調査シート回収率 97%（前年度 96%）であった。2 年度前から保護者アンケートは Web での回答に変更となり、保護者向けアンケートが紙媒体で実施されていた頃と比較して回収率は低下している。紙媒体で実施していた頃の回収率は毎年ほぼ 80%以上であり（過去最高は 89.6%）、子どもを通じた手渡しによる保護者アンケートの方が回収率は高くなるのは当然としても、今後も保護者アンケートの回収率向上に向けた働きかけを継続していただきたい。

I. 重点目標について

学校側が設定した重点目標は以下の 3 項目である。

- ① 「明るい子ども」として、「自分の個性を理解し、自己実現を図る子ども」を重視する。「せたがや探究的な学び」を通して、学習を自分事として捉え、課題を把握し、解決の見通しを持って取り組む力を身に付けさせる。
- ② 「正しい子ども」として、「学校生活・社会生活を創る子ども」を重視する。人権意識や規範意識の醸成に基づき、豊かな人間関係を築く力を身に付けさせる。
- ③ 「たくましい子ども」として、「力を合わせて達成する子ども」を重視する。多様な他者のよさを理解し、協働して解決しようとする態度を身に付けさせるとともに、心身の健康づくりを進める。

II. 重点目標についての評価結果

- ① 「明るい子ども」として、「自分の個性を理解し、自己実現を図る子ども」を重視する。「せたがや探究的な学び」を通して、学習を自分事として捉え、課題を把握し、解決の見通しを持って取り組む力を身に付けさせる。

今年度の学習面に関するアンケートの児童向け設問において、ほとんどの項目でプラスの評価割合が上がっている。とくに設問「わたしはすすんで自分の考えを書いたり発表したりしている」でのプラス評価は 63.2%（前年度 51.7%）と 11.5 ポイント上昇している。「わたしはすすんで友だちの考えを聞いたり、話しあったりしている」では 86.4%（前年度 78.5%）と 7.9 ポイント、「わたしははじめをつけて真剣に授業を受けている」では 85.6%（前年度 79.3%）と 6.3 ポイントそれぞれプラス評価が上昇している。これは、先生方の日々の指導により、子どもたちに「自分の考え」を伝える方法が身に付きつつあると考えられる。そして、積極的に課題に取り組めるようになってきたものと評価する。

一人 1 台のタブレット活用において、「先生は映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」の設問ではプラス評価が 93.2%（前年度 85.1%）と 8.1 ポイント上昇している。また「私は家庭で宿題や e-ラーニングでの学習をしている」の設問ではプラス評価が 75.2%（前年度 71.1%）と 4.1 ポイント上昇している。これらのことから、タブレットが学習用具として定着してきており、使い方のルール整備なども含め、有効な活用が推進されているものと評価する。

② 「正しい子ども」として、「学校生活・社会生活を創る子ども」を重視する。人権意識や規範意識の醸成に基づき、豊かな人間関係を築く力を身に付けさせる。

児童向け設問「わたしは自分からすすんであいさつをしている」でのプラス評価は 91.2%（前年度 82.6%）と 8.6 ポイント上昇している。学校が継続してあいさつ運動に取り組んでいる成果と評価する。また設問「先生に注意されたことは理解できる」のプラス評価は 90.4%（前年度 84.7%）と 5.7 ポイント上昇している。それ以外でも、児童と先生の間を問う設問「先生たちは、ていねいに指導してくれる」のプラス評価は 92.0%（前年度 88.8%）、「先生たちに相談できる」のプラス評価は 82.4%（前年度 70.7%）と、いずれの項目でも向上していることから、先生と児童との関係は良好に保たれているものと評価できる。

自己評価報告書において、課題の「言葉遣い」が多少改善してきているとの記述がある。今後も根気強くきめ細かな生活指導を継続していただきたい。「遅刻が多い」、「落とし物が多い」、「保護者のすぐへの入力が遅い」等の指摘があるので、児童のみでなく保護者に対しても協力と注意を促していただきたい。

③ 「たくましい子ども」として、「力を合わせて達成する子ども」を重視する。多様な他者のよさを理解し、協働して解決しようとする態度を身に付けさせるとともに、心身の健康づくりを進める。

アンケートの児童向け設問「わたしは体育や休み時間にすすんで運動している」でのプラス評価は 76.4%（前年度 71.1%、前々年度 68.7%）と上昇傾向にある。「学校生活は楽しい」のプラス評価は 86.0%（前年度 82.2%）、「学校が好き」のプラス評価は 80.8%（前年度 75.6%）とこれらもそれぞれ 4 から 5 ポイント向上している。これらより、今年度は児童が学校での活動により積極的に取り組んできたものと推察される。

明正小学校の児童の体力向上については、常にスペースの問題があるが、自己評価報告書の中でも、体育授業、遊び時間、たて割班活動の際の体育館、屋上、校庭のスペース調整の仕方について、さらには安全確保等についても詳細に検討されている。これらも踏まえて、次年度に向け引き続き体力向上に取り組んでいただきたい。

昨年度より、児童向け設問に「私は放課後、友だちと遊ぶ時間がある」をアンケート項目に加えているが、この設問に対する回答のプラス評価が 58.8%（前年度 52.5%）と 6.3 ポイント上昇している。プラス評価の上昇は良い方向性と思われるが、依然として半数近くの 5,6 年生が、放課後に友だちと遊ぶような時間的な余裕はない状況は変わっていない。学校で、友だちと体育の時間や休み時間に一緒に体を動かしたり、友だちと協働したチームプレーとして何かに取り組むといった活動が一層重要と思われる。

世田谷区立 明正小学校
令和 6 年度学校関係者評価委員会
相賀巳幸 伊藤明子
荻野里絵 城戸康子
高山尚紀 西山朝子
服部光司